

救急車搬送口での撮影と思い出

Vol.3



8月の終わり。帰りが遅くなって、いつもの出口を出たところ、東海市と知多市の救急車が仲良く並んで停まっていた。その様子を撮影したいと思い、声をかけたところ、搬送後の皆さんが協力してくださいました。

コロナ禍で救急車の受け入れを制限せざるを得ない状況が時折ある中、「すべては患者さんのために」という病院理念のもと、救急機能の維持は当院の大切なミッションであると考えています。救急外来で目まぐるしく働く医師、看護師、事務職員等の姿を見るたびに頭が下がる思いでいます。

そして、救急隊の皆さんの適切な病院前救護があればこそその切れ目のない救急医療であると思います。

以前勤務していた病院で、ICLSコース（突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生を学ぶコース）を立ち上げた際に多くの救急救命士の皆さんと知り合いました。今でも大切な友人たちです。救急隊の皆さんと「顔の見える関係づくり」が救急搬送される患者さんへのより良い医療の提供に繋がると思っています。これからもよろしく願います。

2022年9月 看護局長 宮原晴子